

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	鍼灸師科午前・午後コース	学年 必修 ・ 選択	2 必修	開講区分 授業形態	半期 講義	担当教員 今井 紀代子 先生
	生理学Ⅱ					

[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

医療の基礎となる生理学のうち、内分泌系・生殖系・感覚系・生体の防御機構を習得する授業を行う。
医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講して欲しい。
座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んで欲しい。

[到達目標]

医学の基礎となる生理学の知識を習得する。
身体の正常な働きを説明できるようになる。

[使用教材、参考文献等]

生理学[医歯薬出版]

回	【授業概要】	到達目標(できるようになること)
1	第8章 内分泌 A、ホルモンの特徴～B、ホルモンの種類とその働き (視床下部と下垂体)	内分泌腺を理解できる。 ホルモンの性質、作用機序、分泌調節を理解できる。
2	第8章 B、ホルモンの種類とその働き (下垂体ホルモン～副甲状腺ホルモン)	下垂体～副甲状腺から分泌されるホルモンとその働きが理解できる。
3	第8章 B、ホルモンの種類とその働き (膵臓ホルモン～副腎ホルモン)	膵臓～副腎から分泌されるホルモンとその働きが理解できる。
4	第8章 B、ホルモンの種類とその働き(精巣・卵巣のホルモン～その他) 第9章 生殖・成長と老化 A、生殖～	性腺から分泌されるホルモンとその働きが理解できる。 生殖器の構造と働きを理解できる。
5	第9章 b.女性生殖器 (2)性周期	女性性周期を理解できる。
6	第9章 B、妊娠と出産～D、老化	妊娠～出産までの流れを理解できる。 老化について理解できる。
7	確認テスト 第13章 感覚 A、感覚一般～	テストにより効果測定、理解度の把握。感覚を分類することができ、各種感覚に共通する一般的特徴を理解できる。
8	テスト返却・解説 第13章 B、体性感覚～	テストの解説。 体性感覚、内臓感覚について理解できる。
9	第13章 D、痛覚	痛覚について理解できる。
10	第13章 特殊感覚①	特殊感覚である味覚・嗅覚・聴覚を理解できる。
11	第13章 特殊感覚②	特殊感覚である平衡感覚・視覚を理解できる。
12	第14章 生体の防御機構 生体の防御機構 a.非特異的防御機構～ c.白血球の働き	非特異的防御機構・特異的防御機構の特徴を理解できる。
13	第14章 免疫に働く液性因子～B、免疫反応	免疫系で働く白血球や液性因子の働きを理解できる。
14	期末テスト 第15章 身体活動の協調	テストにより効果測定、理解度の把握。生体が環境に順応・適応する仕組み、ホメオスタシス機構について理解できる。
15	テスト返却・解説 第15章	テストの解説。 総復習

[評価について]

評価は筆記試験で行う。
筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行う。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	鍼灸師科午前・午後コース		学年	2	開講区分	半期	担当教員 柏崎 雅大 先生		
	必修 ・ 選択		必修		授業形態	講義	時間数 (1)	30	授業回数 15

[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

教員資格を持つ鍼灸師が、基礎医学である解剖学、及び生理学を習得する授業を行う。解剖学では生殖器系、感覚器系について、生理学では筋、運動についての講義を行う。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。

[到達目標]

解剖学:生殖器の構造、特殊感覚の構造と伝導路について理解し、自ら要点を整理することができる。生理学:筋の機能、運動の仕組みについての知識を習得し、自ら要点を整理することができる。

[使用教材、参考文献等]

解剖学・生理学(医歯薬出版)、解剖学トレーニングノート(医学教育出版社)

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	解剖学 第6章 生殖器系;男性生殖	精巣の構造、精子の発生と精路の構造を理解する。
2	解剖学 第6章 生殖器系;女性生殖器	卵巣の構造、卵子の発生を理解する。
3	解剖学 第6章 生殖器系;女性生殖器、発生	子宮、腟の構造を理解する。発生の諸段階を理解する。
4	解剖学 第9章 感覚器;視覚器	眼球の構造、視覚の伝導路を理解する。
5	解剖学 第9章 感覚器;平衡聴覚器	聴覚器の構造、聴覚の伝導路を理解する。平衡覚の構造を理解する。
6	解剖学 第9章 感覚器;平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器	平衡覚の構造、平衡覚の伝導路を理解する。味覚器と嗅覚器の伝導路を理解する。
7	解剖学 復習 確認テスト	生殖器および感覚器の構造を復習・確認テストを行い、理解できていない内容を把握し、理解力を高める。
8	生理学 第11章 筋 A骨格筋の構造と働き～B筋の収縮の仕組み	骨格筋の微細構造と、興奮収縮連関を理解できる。
9	生理学 第11章 筋 Cエネルギー供給の仕組み	筋収縮のエネルギー代謝と熱産生を理解できる。
10	生理学 第11章 心筋と平滑筋	心筋と平滑筋の構造を理解できる。心筋、平滑筋、骨格筋の特徴と相違を理解できる。
11	生理学 第12章 運動 A骨格筋の支配神経～e骨格筋の緊張	骨格筋の支配神経を理解できる。
12	生理学 第12章 運動 B運動の調節	中枢神経の各レベルの運動調節機構を理解できる。
13	生理学 第12章 C錐体路系と錐体外路系～D発生と言語	運動の伝導路を理解できる。
14	生理学 復習 確認テスト	筋および運動の機能を復習・確認テストを行い、理解できていない内容を把握し、理解力を高める。
15	期末テスト 解答・解説	テストによる効果測定を行い、理解できていない内容を把握し、復習することで理解力を高める。

[評価について]

評価は筆記試験で行う。
筆記試験は確認テスト(30点)と期末テスト(70点)
の合計100点で評価する。評価は学則規定に準
ずる。

[特記事項]

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	鍼灸師科午前・午後コース	学年	2	開講区分	半期	担当教員 東野 友寛 先生		
	運動学	必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数

[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

患者に対しての運動指導を経験し、姿勢や歩行について知見を有する教員が、運動学を習得する授業を行う。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。

[到達目標]

身体運動を分析する基本的観点と専門用語を理解することを目的とし、身体各部の詳細と運動を知る。さらに姿勢や歩行について知識を身につけ、理解、説明できるようにする。

[使用教材、参考文献等]

リハビリテーション概論(医歯薬出版)

[準備学習・時間外学習]

専門用語が多い科目のため、あらかじめ教科書や配布資料を予習すること。また復習をし、人体各部の構造や機能を理解することが望ましい。

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション A. 運動学の基礎 1. 関節と運動の力学	運動学の定義を理解できる。
2	A.運動学の基礎 2. 姿勢とその異常	正常立位と異常立位の違いを理解できる。
3	A.運動学の基礎 3. 運動路と感覚路	錐体路と錐体外路の違いを理解できる。
4	A.運動学の基礎 4. 反射と随意運動	姿勢反射と立ち直り反射を理解できる。
5	B.身体各部の機能 1. 脊柱・体幹の機能/確認テスト①	脊柱の動きと胸郭の動きを理解できる。
6	B.身体各部の機能 2. 肩甲帯・肩の機能	肩甲上腕リズム・肩の動きを理解できる。
7	B.身体各部の機能 3. 肘と前腕の機能	肘と前腕の動きと、作用する筋を理解できる。
8	B.身体各部の機能 4. 手と手の機能	手のアーチと手に起こりやすい変形を理解できる。
9	B.身体各部の機能 5. 骨盤と股関節の機能/確認テスト②	骨盤と股関節の動きを理解できる。
10	B.身体各部の機能 6. 膝関節の機能	膝関節のメカニクスについて理解できる。
11	B. 身体各部の機能 7. 足の機能	足関節の動きと、起こりやすい変形を理解できる。
12	B.身体各部の機能 8. 正常歩行と異常歩行	歩行サイクルについて理解できる。
13	B.身体各部の機能 9. 顔面および頭部の筋	頭顔面部の筋と動きを理解できる。
14	総復習	運動学全般を復習し、習熟度を高めることができる。
15	期末テスト 解答・解説	テストによる効果測定を行い、理解できていない内容を把握し、復習することで理解力を高める。

[評価について]

評価は筆記試験で行う。

筆記試験は確認テスト①と確認テスト②と期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前・午後コース	学年	2	開講区分	通年	担当教員		
授業科目名	病理学概論		必修 ・ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (1)	授業回数 15

[授業の学習内容と心構え]

教員資格を所有する鍼灸師、または医師が疾病によって起こる様々な変化、疾病的発生機序と転機についての講義を行う。座学での授業であるため、復習と予習を行って授業に臨んでほしい。

病因、循環障害、退行性病変、進行性病変の病態について理解し、自ら要点を整理し、知識を得ることを目的とする。

[使用教材、参考文献等]

病理学概論(医歯薬出版)

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 第1章 病理学とは 第2章 疾病についての基本的考え方	病理学とは何か、疾病に分類について理解できる。
2	第3章 病因 内因 素因、遺伝	素因や染色体異常により罹患しやすい疾患を理解できる。
3	第3章 病因 内因 内分泌、免疫	内分泌疾患や免疫反応について理解できる。
4	第3章 病因 外因 供給障害	ビタミンや無機塩類の過不足により生じる疾患や症状を理解できる。
5	第3章 病因 外因 物理的要因、化学的要因	放射性物質の感受性の高い器官や、化学物質によって生じる疾患を理解できる。
6	第3章 病因 外因 医原病、環境汚染、生物的要因	医療行為によって発生する疾患や、病原微生物によって発症する感染症を理解できる。
7	試験(病因)	試験により効果測定を行い、授業の習得度を理解する。
8	第4章 循環障害 循環器復習	循環障害に関わる循環器系を復習し、理解できる。
9	第4章 循環障害 うつ血、貧血、出血	うつ血の発生機序、貧血や出血の種類や疾患を理解できる。
10	第4章 循環障害 血栓、塞栓、梗塞	血栓、塞栓、梗塞の種類と発生機序を理解できる。
11	第4章 循環障害 水腫、浮腫、脱水症、ショック	浮腫、脱水症の種類、発生機序、症状を理解できる。 ショックの種類を理解できる。
12	第5章 退行性病変 萎縮、変性	萎縮や変性の病態と種類を理解できる。
13	第5章 退行性病変 加齢、生活習慣病、壊死と死	加齢によって発症する疾患や生活習慣病の病態について理解できる。壊死の種類、脳死の定義を理解できる。
14	第6章 進行性病変 肥大と増殖、再生、化生	再生の分類、化生と腫瘍との関係について理解できる。
15	第6章 進行性病変 創傷治癒 試験(循環障害、退行性病変、進行性病変)	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

[評価について]

評価は試験で行う。

試験は4回行い合計200点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	鍼灸師科午前・午後コース	学年 必修/ 選択	2 必修	開講区分 授業形態	通年 講義	担当教員 櫻井 恵司 先生		
	病理学概論					時間数 (単位) (1)	30	授業回数 15

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

教員資格を持つ鍼灸師、または病理学について知見を有する教員が、疾病によって起こる様々な変化、疾病の発生機序と転機についての講義を行う。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。

[到達目標]

炎症、腫瘍、免疫・アレルギー、先天性異常の病態について理解し、自ら要点を整理し、知識を得ることを目標とする。

[使用教材、参考文献等] 病理学概論(医歯薬出版)	[準備学習・時間外学習] 専門用語が多い科目のため、あらかじめ教科書や配布資料を予習すること。また復習をし、人体の構造や機能を理解することが望ましい。

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
16	第6章 進行性病変・創傷治癒・組織内異物の処理 第7章 炎症;炎症の一般	創傷治癒の過程を理解できる。異物の処理の種類を理解できる。炎症の機序を理解できる。
17	第7章 炎症;炎症の一般、炎症の分類	炎症の機序を理解できる。炎症の分類と疾患を理解できる。
18	第7章 炎症;炎症の分類 第8章 腫瘍	主な特異性炎の病態を理解できる。
19	第8章 腫瘍;腫瘍の一般	細胞異型について理解できる。腫瘍組織について理解できる。
20	第8章 腫瘍;腫瘍の一般	腫瘍の分類について理解できる。
21	確認テスト 解答・解説	テストによる効果測定を行い、理解できていない内容を把握し、復習することで理解力を高める。
22	第8章 腫瘍;腫瘍の一般	前癌病変を理解できる。転移しやすい器官、転移方式について理解できる。
23	第8章 腫瘍;腫瘍の一般、良性腫瘍、悪性腫瘍	腫瘍の発生原因(外因)について理解できる。
24	第9章 免疫異常・アレルギー:液性免疫と細胞性免疫	免疫の概要を理解する。抗体の種類と特徴を理解できる。
25	第9章 免疫異常・アレルギー:アレルギー	アレルギーの分類とその病態、具体的な疾患を理解できる。
26	第9章 免疫異常・アレルギー;免疫不全、自己免疫異常	免疫不全について理解できる。非特異的臓器自己免疫疾患について理解できる。主な自己免疫疾患について理解できる。
27	第10章 先天性異常;先天性異常総論	先天性代謝異常について理解できる。染色体異常に基づく奇形を理解できる。
28	第10章 先天性異常;先天性異常総論	奇奇性因子について理解できる。奇形の分類を理解できる。
29	第10章 先天性異常;遺伝性疾患、染色体異常	単純遺伝性の異常を理解できる。
30	期末テスト 解答・解説	テストによる効果測定を行い、理解できていない内容を把握し、復習することで理解力を高める。

[評価について] 評価は試験で行う。 試験は4回行い合計200点で評価する。評価は学則規定に準ずる。	[特記事項] 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。
--	--

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	鍼灸師科午前・午後コース	学年	2	開講区分	通年	担当教員 山田 英史 先生		
	臨床医学総論	必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数 15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

様々な疾患の鑑別に従事していた教員が、全ての医療職に必要とされる診察法と症候について、基礎的な知識や理解を深める授業を行う。

座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。またチーム医療の必要性を理解し、鍼灸師が担う医療について知見を広めて欲しい。

〔到達目標〕

医療面接技法、診察の概要・方法、生命聴診、全身の診察、局所の診察の知識を習得することを目標とする。
各診察について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。

〔使用教材、参考文献等〕 臨床医学総論(医歯薬出版)	〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくること。また、授業後は復習をし、用語の意味を理解することが望ましい。
-------------------------------	---

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	・第1章; 診察の概要 医療面接の意義、関連用語、診察の意義と方法	医療面接の意義、関連用語、診察の意義と方法について理解できる。
2	・第2章; 診察の方法 視診、触診、打診	視診、触診、打診の意義と方法について理解できる。
3	・第2章; 診察の方法 聴診、測定法、神経系の診察	聴診、測定法、神経系の診察の意義と方法について理解できる。
4	・第3章; 生命聴診(バイタルサイン)の診察 体温、脈拍	体温、脈拍の診察の意義と診察方法について理解できる。
5	・第3章; 生命聴診(バイタルサイン)の診察 血圧、呼吸	血圧、呼吸の診察の意義と診察方法について理解できる。
6	・第4章; 全身の診察 顔貌、精神状態、言語	顔貌、精神状態、言語の診察の意義と診察方法について理解できる。
7	・第4章; 全身の診察 身体計測、体型・体格、栄養状態、姿勢と体位	身体計測、体型・体格、栄養状態、姿勢と体位の診察の意義と診察方法について理解できる。
8	確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	・第4章; 全身の診察 歩行	歩行の診察の意義と診察方法について理解できる。
10	・第4章; 全身の診察 皮膚・粘膜・皮下組織、爪の状態	皮膚・粘膜・皮下組織、爪の状態の診察の意義と診察方法について理解できる。
11	・第4章; 全身の診察 リンパ節、その他的一般的な状態	リンパ節、その他的一般的な状態の診察の意義と診察方法について理解できる。
12	・第5章; 局所の診察 頭部・顔面	頭部・顔面の診察の意義と診察方法について理解できる。
13	・第5章; 局所の診察 眼、鼻	眼、鼻の診察の意義と診察方法について理解できる。
14	・第5章; 局所の診察 耳、口腔	耳、口腔の診察の意義と診察方法について理解できる。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。	〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。
--	--

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	鍼灸師科午前・午後コース 臨床医学総論	学年	2	開講区分	通年	担当教員 山田 英史 先生		
		必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

様々な疾患の鑑別に従事していた教員が、全ての医療職に必要とされる適切な診察法と症候について、基礎的な知識や理解を深める授業を行う。

座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。またチーム医療の必要性を理解し、鍼灸師が担う医療について知見を広めて欲しい。

[到達目標]

局所の診察、神経系の診察、運動機能検査、その他の診察、臨床検査法、おもな症状の診察法、治療学、臨床心理の知識を習得することを目標とする。

各診察について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。

[使用教材、参考文献等]		[準備学習・時間外学習]
臨床医学総論(医歯薬出版)		専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくること。また、授業後は復習をし、用語の意味を理解することが望ましい。

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	・第5章; 局所の診察 頸部、胸部、乳房、肺・胸膜	頸部、胸部、乳房、肺・胸膜の診察の意義と診察方法について理解できる。
2	・第5章; 局所の診察 腹部・背部	腹部・背部の診察の意義と診察方法について理解できる。
3	・第5章; 局所の診察 四肢	四肢の診察の意義と診察方法について理解できる。
4	・第6章; 神経系の診察 感覚検査法、反射検査	感覚検査法、反射検査の診察の意義と診察方法について理解できる。
5	・第6章; 神経系の診察 脳神経系の検査、髄膜刺激症状検査、その他の検査	脳神経系の検査、髄膜刺激症状検査、その他の検査の意義と診察方法について理解できる。
6	・第6章; 神経系の診察 運動麻痺、筋肉の異常、不随意運動	運動麻痺、筋肉の異常、不随意運動の診察の意義と診察方法について理解できる。
7	確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
8	・第6章; 神経系の診察 協調運動～徒手による整形外科的検査法	協調運動～徒手による整形外科的検査法の診察の意義と診察方法について理解できる。
9	・第8章; その他の診察 救急時の診察～高齢者の診察 ・第9章; 臨床検査法 一般検査	救急時の診察～高齢者の診察、一般検査の診察の意義と診察方法について理解できる。
10	・第9章; 臨床検査法 血液生化学検査、生理学的検査および画像診断の概要	血液生化学検査、生理学的検査および画像診断の概要の診察の意義と診察方法について理解できる。
11	・第11章; 治療学 ・第12章; 臨床心理	治療学、臨床心理における診察の意義と診察方法について理解できる。
12	・第10章; おもな症状の診察①	各種症状の定義・概念、病態生理、分類および原因疾患、臨床症状、検査と鑑別診断、治療について理解できる。
13	・第10章; おもな症状の診察②	各種症状の定義・概念、病態生理、分類および原因疾患、臨床症状、検査と鑑別診断、治療について理解できる。
14	・第10章; おもな症状の診察③	各種症状の定義・概念、病態生理、分類および原因疾患、臨床症状、検査と鑑別診断、治療について理解できる。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

[評価について]	[特記事項]
評価は筆記試験で行う。 筆記試験は合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。	每授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	鍼灸師科午前・午後コース	学年 必修/ 選択	2 必修	開講区分 授業形態	通年 講義	担当教員 佐々木 史子 先生
	臨床医学各論 I					

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

様々な疾患の鑑別に従事している教員が、主要な疾患の一般的な臨床症状、病態、診断、治療法について、基礎的な知識や理解を深める授業を行う。

座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。

[到達目標]

感染症、消化管疾患、肝・胆・脾疾患、呼吸器疾患の知識を習得することを目標とする。

各疾患について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。

[使用教材、参考文献等]

臨床医学各論(医歯薬出版)

[準備学習・時間外学習]

専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習してくること。また授業後は復習をし、各単元で学んだ疾患について必要な知識を列挙できるようになることが望ましい。

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	第1章; 感染症 総論、細菌感染症	感染症総論、細菌感染症の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
2	第1章; 感染症 細菌感染症、ウイルス感染症、性感染症	細菌感染症、ウイルス感染症、性感染症の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
3	第1章; 感染症 ウイルス感染症、性感染症 確認テスト	ウイルス感染症、性感染症の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
4	第2章; 消化管疾患 口腔疾患、食道疾患	口腔疾患、食道疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
5	第2章; 消化管疾患 胃・十二指腸疾患	胃・十二指腸疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
6	第2章; 消化管疾患 腸疾患	腸疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
7	第2章; 消化管疾患 腸疾患、腹膜疾患	腸疾患、腹膜疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
8	確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	第3章; 肝・胆・脾疾患 肝臓疾患	肝臓疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
10	第3章; 肝・胆・脾疾患 肝臓疾患、胆道疾患	肝臓疾患、胆道疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
11	第3章; 肝・胆・脾疾患 胆道疾患、脾臓疾患 確認テスト	胆道疾患、脾臓疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
12	第4章; 呼吸器疾患 感染性呼吸器疾患	感染性呼吸器疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
13	第4章; 呼吸器疾患 閉塞性呼吸器疾患、拘束性呼吸器疾患	閉塞性呼吸器疾患、拘束性呼吸器疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
14	第4章; 呼吸器疾患 その他の呼吸器疾患	その他の呼吸器疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

[評価について]

評価は筆記試験で行う。

筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	鍼灸師科午前・午後コース	学年	2	開講区分	通年	担当教員	佐々木 史子 先生	
	臨床医学各論 I	必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

様々な疾患の鑑別を行ってきた教員が、主要な疾患の一般的な臨床症状、病態、診断、治療法について、基礎的な知識や理解を深める授業を行う。

座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。

[到達目標]

腎・尿器疾患、内分泌疾患、代謝・栄養疾患、整形外科疾患の知識を習得することを目標とする。

各疾患について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。

[使用教材、参考文献等]

臨床医学各論(医歯薬出版)

[準備学習・時間外学習]

専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習してくること。また授業後は復習をし、各单元で学んだ疾患について必要な知識を列挙できるようになることが望ましい。

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
16	第5章; 腎・尿器疾患 原発性糸球体腎炎、腎不全	原発性糸球体腎炎、腎不全疾患について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
17	第5章; 腎・尿器疾患 感染症、腫瘍性疾患	感染症、腫瘍性疾患について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
18	第5章; 腎・尿器疾患 腫瘍性疾患、結石症、前立腺疾患 確認テスト	腫瘍性疾患、結石症、前立腺疾患について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
19	第6章; 内分泌疾患 下垂体疾患、甲状腺疾患	下垂体疾患、甲状腺疾患について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
20	第6章; 内分泌疾患 副腎疾患 確認テスト	副腎疾患について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
21	第7章; 代謝栄養疾患 糖代謝異常、脂質代謝異常	糖代謝異常、脂質代謝異常について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
22	確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
23	第7章; 代謝栄養疾患 尿酸代謝異常、その他の代謝異常症 確認テスト	尿酸代謝異常、その他の代謝異常症について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
24	第8章; 整形外科疾患 総論、関節疾患	整形外科疾患総論、関節疾患について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
25	第8章; 整形外科疾患 骨代謝性疾患・骨腫瘍	骨代謝性疾患・骨腫瘍について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
26	第8章; 整形外科疾患 筋・腱疾患、形態異常	筋・腱疾患、形態異常について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
27	第8章; 整形外科疾患 脊椎疾患、脊髓損傷	脊椎疾患、脊髓損傷について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
28	第8章; 整形外科疾患 外傷	外傷について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
29	第8章; 整形外科疾患 外傷、その他の整形外科	外傷、その他の整形外科について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。
30	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

[評価について]

評価は筆記試験で行う。

筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	鍼灸師科午前・午後コース	学年 必修 ・ 選択	2	開講区分 授業形態	半期 講義	担当教員 東 路子 先生
	保険の仕組みと職業倫理					

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

鍼灸の保険請求業務を経験している教員が、高齢化社会における保険の役割を理解し、鍼灸施術における保険制度の仕組みについて授業を展開する。

日本における社会保障制度を理解し、医療保険・年金保険・介護保険の仕組みを説明できるようになって欲しい。

[到達目標]

社会保障と社会保険制度について説明することができる。また、鍼灸師として保険を利用することを理解し仕組みを説明できる。

[使用教材、参考文献等]

解剖学(医歯薬出版)

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	社会保障制度について	日本においての社会保障制度について理解することができる。
2	社会保障制度の中の社会保険について	社会保険の5つについて学び理解することができる。
3	社会保険制度(医療保険)	医療保険の仕組みについて理解できる。
4	社会保険制度(年金保険)	年金保険の仕組みについて理解できる。
5	社会保険制度(介護保険)	介護保険制度の仕組みについて理解できる。
6	社会保険制度労働保険(雇用保険と労災保険)	労働保険制度の仕組みについて理解できる。
7	職業倫理	医療倫理・職業倫理について理解し鍼灸師としての倫理を考えることができる。
8	期末試験	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

[評価について]

評価は筆記試験で行う。

筆記試験は100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前・午後コース	学年	2	開講区分	半期	担当教員	藤掛 雅博 先生	
授業科目名	経絡経穴概論 II	必修 ・ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (1)	30 (1)	授業回数 15

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

専任教員が授業を行う。

経絡経穴とは病状の分析、病機変化の検討を制定するための重要なものであり、古くから鍼灸師が重視してきたものである。経絡経穴概論 II では初心者の臨床応用を強化するために基礎から応用へ展開していく。

〔到達目標〕

基礎力を固め、考える力を養う。

〔使用教材、参考文献等〕

「新版 経絡経穴概論」(社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)

「解剖学 第2版」(社)東洋療法学校協会編(医歯薬出版社)

「東洋医学臨床論」(社)東洋療法学校協会編(医道の日本社)

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	流注・骨度法など	流注・骨度法などを理解できる。
2	手の陰経:取穴部位・要穴	手の陰経:取穴部位・要穴を理解できる。
3	手の陽経:取穴部位・要穴	手の陽経:取穴部位・要穴を理解できる。
4	背部:取穴部位・要穴	背部:取穴部位・要穴を理解できる。
5	確認テスト	1~4で習得した知識の再確認ができる。
6	足の陽経:取穴部位・要穴1	足の陽経:取穴部位・要穴を理解できる。
7	足の陽経:取穴部位・要穴2	足の陽経:取穴部位・要穴を理解できる。
8	足の陰経:取穴部位・要穴	足の陰経:取穴部位・要穴を理解できる。
9	胸部・腹部:取穴部位・要穴	胸部・腹部:取穴部位・要穴を理解できる。
10	要穴まとめ・組合せ穴	要穴まとめ・組合せ穴を理解できる。
11	奇経など	奇経を理解できる。
12	頸部・顔面・頭部:取穴部位	頸部・顔面・頭部:取穴部位を理解できる。
13	頸部・顔面・頭部:取穴部位	頸部・顔面・頭部:取穴部位を理解できる。
14	定期試験	問題の解法が導きだせるようになる。
15	解答・解説、総復習	期末試験の解答解説を行う。

〔評価について〕

評価は 筆記試験で行う。

暗唱(30点)と確認テスト(20点)と期末テスト(70点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

十四経については所属する経穴名が所定の時間内に暗唱できること。必ず復習を行うこと。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	鍼灸師科午前・午後コース		学年 必修 ・ 選択	1	開講区分 授業形態	半期 講義	担当教員 高濱 晴美 先生		
	東洋医学概論Ⅱ						30 (1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

鍼灸師として臨床で現場で地域住民の健康増進に貢献している教員が、鍼灸の基礎となる東洋医学のうち、基礎からの応用を習得する授業を行なう。

東洋医学の基礎となる言語を意識しながら受講してほしい。

座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んでほしい。

〔到達目標〕

1年生に学んだ東洋医学の基礎に肉付けをしていく、知識を深めていく。

〔使用教材、参考文献等〕

新版 東洋医学概論(医道の日本社)

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	・オリエンテーション ・1年生の復習と五臓相互関係①	五行色体表を復習し、五臓の相互関係をイメージしていく。
2	・五臓相互関係②	五臓の相互関係を理解する。
3	・五臓の相互関係③	五臓のそれぞれの病証を考えながら相互関係を理解する。
4	・五臓の相互関係④⑤	五臓のそれぞれの病証を考えながら相互関係を理解する。
5	・五臓の相互関係⑥ ・四診(望診)	五臓の相互関係を理解し、東洋医学的な診断方法について学習する。
6	・四診(望診)(聞診)	患者さんを「診る」ことの重要性を理解する。
7	・四診(問診)①	実際の医療面接を意識しながら、どのように患者さんと対話を通じて情報を得ていくかを理解する。
8	・四診(問診)②	実際の医療面接を意識しながら、どのように患者さんと対話を通じて情報を得ていくかを理解する。
9	・四診(問診)③④	実際の医療面接を意識しながら、どのように患者さんと対話を通じて情報を得ていくかを理解する。
10	確認テスト 実施	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
11	・四診(問診)④(切診)	東洋医学独特の言い回しなどを学びながら、様々な脈などを理解していく。
12	・四診(切診)	実際に触れていく準備(知識)を深める。
13	・弁証について	弁証について理解する。
14	・論治について	論治について細かい部分を理解する。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。

筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	鍼灸師科午前・午後コース	学年 必修 ・ 選択	2	開講区分 授業形態	半期 講義/実習	担当教員 柏崎 雅大 先生
	触擦解剖 II					

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

鍼灸師として臨床の現場で地域住民の健康増進に貢献している教員が、体表解剖と経穴について指導し、取穴技術を習得する授業を行なう。また様々な疾患の鑑別に従事していた教員が、臨床上必要な関節可動域測定や徒手筋力検査を実技形式で行う。卒業に関わる実技試験で問われる内容(ROM・反射検査・徒手検査法)なので主体的に取り組んで欲しい。より臨床的な内容になるため、治療のイメージが持てるようになって欲しい。

[到達目標]

主要な関節の可動域(ROM)・徒手筋力検査(MMT)、腱反射・病的反射による神経の診察法、徒手検査法ができるようになる。

[使用教材、参考文献等]

ずっと使える！鍼灸臨床BOOK

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	体表解剖と筋触察(1)	体表面上で下肢の筋の位置を把握し、触り分けができる。
2	現代医学的診察 腱反射、病的反射	腱反射、病的反射の方法を実践できる。
3	体表解剖と筋触察(2)	体表面上で上肢の筋の位置を把握し、触り分けができる。
4	現代医学的診察 徒手検査法 頸肩部	頸肩部の徒手検査法を実践できる。
5	現代医学的診察 徒手検査法 腰下肢	腰部下肢の徒手検査法を実践できる。
6	現代医学的診察 徒手検査法 その他、徒手検査の総復習	その他の徒手検査を実践できる。患者役に徒手検査法の意義を説明し、測定できる。
7	確認テスト 徒手検査法	徒手検査法のテストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。
8	ROM概要・頸部ROM測定	ROMの概要(計測方法・器具の使い方)を理解し模倣できる。頸部の運動方向と参考可動域を理解し、測定できる。
9	上肢ROM測定	上肢(肩関節・肘関節・手関節)の運動方向と参考可動域を理解し、測定できる
10	下肢ROM測定	下肢(股関節・膝関節・足関節)の運動方向と参考可動域を理解し、測定できる。
11	期末テスト ROM測定	ROM測定のテストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。
12	MMT概要・頸部MMT測定	MMTの概要(6段階評価・測定方法)を理解し模倣できる。頸部の運動方向を理解し、測定ができる。
13	上肢MMT測定	上肢(肩関節・肘関節・手関節)の運動方向を理解し、測定できる。
14	下肢MMT測定	下肢(股関節・膝関節・足関節)の運動方向を理解し、測定できる。
15	MMT総復習(患者対応含めた対応)	患者役にMMT測定の意義を説明し、測定できる。

[評価について]

評価は確認テスト・期末テスト(計100点)で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

必要に応じてプリントを配布する。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	鍼灸師科午前・午後コース	学年	2	開講区分	半期	担当教員		
	社会あはき学Ⅱ					印南秀先生他		
		必修/ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数 15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

臨床現場で様々な疾患の施術を行っている教員が、多様な臨床現場でのあはき師の業務・役割について教授する。また、鍼灸師の新たな働き方や分野の創造、はりきゅう経営に関する経営学を講義・ワーク形式で行う。

〔到達目標〕

1年次に学んだ社会あはき学の内容を踏まえ、様々な現場で活動する鍼灸師の仕事・役割をしることで、自身の将来像をより明確に出来る。

独立開業権を有する鍼灸師として、治療院経営をイメージできる。

〔使用教材、参考文献等〕

社会あはき学

〔準備学習・時間外学習〕

講義内容を復習し、自分自身の将来像を明確にする。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	はりきゅう経営論 オリエンテーション	
2	はりきゅう経営論 SDGsを考えた鍼灸経営①	
3	はりきゅう経営論 SDGsを考えた鍼灸経営②	
4	はりきゅう経営論 SDGsを考えた鍼灸経営③	
5	はりきゅう経営論 SDGsを考えた鍼灸経営④	
6	はりきゅう経営論 SDGsを考えた鍼灸経営⑤	SDGsを考え、既存の鍼灸ビジネスを再考することが出来る。これからの社会を考えた、鍼灸師の新しい働き方を創造することが出来る。
7	はりきゅう経営論 SDGsを考えた鍼灸経営⑥	
8	はりきゅう経営論 SDGsを考えた鍼灸経営⑦	
9	はりきゅう経営論 SDGsを考えた鍼灸経営⑧	
10	はりきゅう経営論 SDGsを考えた鍼灸経営⑨	
11	はりきゅう経営論 SDGsを考えた鍼灸経営⑩	
12	鍼灸師としての活躍の場①	あはき師としての活躍の場と治効について理解できる。
13	鍼灸師としての活躍の場②	あはき師としての活躍の場と治効について理解できる。
14	鍼灸師としての活躍の場③	あはき師としての活躍の場と治効について理解できる。
15	鍼灸師としての活躍の場④	あはき師としての活躍の場と治効について理解できる。

〔評価について〕

評価は授業内で行うワークでの成果物と発表にて行う。

〔特記事項〕

必要に応じてプリントを配布する。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前・午後コース	学年	2	開講区分	通年	担当教員		
授業科目名	応用はり実技		必修選択	必修	授業形態	実技	時間数(1)	授業回数
							30	15

〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

大関節を中心に構造機能を理解した上で、主要筋肉、靭帯への刺鍼を行う。また、適正に機材の使用を行い鍼通電療法を実施する。主動筋と拮抗筋の関係性を刺鍼前・後の評価から理解する。施術者および患者役として体感した情報を元に関連する知識を自ら調べ、獲得するという能動的学びを求める。

〔到達目標〕

鍼灸治療の現場で対応する確立の高い整形外科疾患を中心に病態鑑別ができるようになる。また、病態に応じた患部への鍼施術が指示通りに出来る。

〔使用教材、参考文献等〕

はりきゅう実技基礎編（医道の日本）

〔準備学習・時間外学習〕

解剖学や東洋医学概論、経絡經穴概論の知識が必要になるため、1年次に授業で習ったことを復習し、また刺鍼に対しても基礎的な技術の復習をし、確実に身に付けることが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	ガイダンス・基本的な刺鍼方法の復習	科目履修のポイントを理解する。 頭頸部への直刺ができる。
2	通電療法の基本	通電療法で使用する機材を基本操作を身に付ける。
3	肩部の刺鍼	肩関節の構造および機能の復習 主要筋への刺鍼と通電
4	頭頸部の刺鍼①	頭頸部の構造および機能の復習 つまみ押手の習得
5	頭頸部の刺鍼②	頭頸部の構造および機能の復習 頭部への横刺
6	肘部～前腕部の刺鍼	肘関節・手関節の構造および機能の復習 前腕屈筋群および伸筋群への刺鍼と通電
7	肩甲間部の刺鍼	肩背部の筋肉層を理解し、安全な刺鍼操作を行う。
8	腰部の刺鍼	腰部の筋とその作用を理解し、可動域検査により施術の目標部位を鑑別し適切に刺鍼操作を行う。
9	腰部～殿部の刺鍼	骨盤部の構造と機能について理解する。 股関節周囲の触察と刺鍼を適切に行う。
10	股関節部の刺鍼	可動域改善を目標に施術部位の選定を触察を中心に行う。患部への刺鍼および通電を適切に行う。
11	膝部の刺鍼	膝関節の構造と機能を理解する。 膠原組織への通電を学ぶ。
12	下腿の刺鍼①	下腿の構造と機能を理解する。 通電を適切に行う。
13	下腿の刺鍼②	下腿の構造と機能を理解する。 通電を適切に行う。
14	中間総括試験（実技）①／フィードバック	1～13回の内容の確認を実技にて行う。
15	中間総括試験（実技）②／フィードバック	1～13回の内容の確認を実技にて行う。

〔評価について〕

実技試験およびFormsにて確認試験行う。

実技試験は中間評価試験と期末試験の合計100点で評価する。評価については学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

与えられた課題に対して取り組み、その結果を自分なりに分析を行うよう努めること。不透明な部分については明確にするように行動を起こすこと。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前・午後コース	学年	2	開講区分	通年	担当教員			
授業科目名				進藤 千聖 先生					
応用はり実技	必修選択	必修	授業形態	実技	時間数 (1)	30	授業回数	15	

〔授業の学習内容と心構え〕（実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する）

大関節を中心に構造機能を理解した上で、主要筋肉、韌帯への刺鍼を行う。また、適正に機材の使用を行い鍼通電療法を実施する。主動筋と拮抗筋の関係性を刺鍼前・後の評価から理解する。施術者および患者役として体感した情報を元に関連する知識を自ら調べ、獲得するという能動的学びを求める。

〔到達目標〕

鍼灸治療の現場で対応する確立の高い整形外科疾患を中心に病態鑑別ができるようになる。また、病態に応じた患部への鍼施術が指示通りに出来る。

〔使用教材、参考文献等〕 はりきゅう実技基礎編（医道の日本社）	〔準備学習・時間外学習〕 解剖学や東洋医学概論、経絡経穴概論の知識が必要になるため、1年次に授業で習ったことを復習し、また刺鍼に対しても基礎的な技術の復習をし、確実に身に付けることが望ましい。
------------------------------------	---

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	肩関節の病態鑑別と実技①	各授業で扱う部位の構造と機能を理解する。
2	肩関節の病態鑑別と実技②	使用器具を適正に扱い、安全で効果的な施術操作を行う。
3	肘関節および手関節の病態鑑別と実技	
4	脊柱の病態鑑別と実技①	
5	脊柱の病態鑑別と実技②	
6	脊柱の病態鑑別と実技③	
7	股関節の病態鑑別と実技	
8	膝関節の病態鑑別と実技①	
9	膝関節の病態鑑別と実技②	
10	足関節の病態鑑別と実技	
11	胸部の病態鑑別と実技	
12	下肢の病態鑑別と実技	
13	まとめ①	16～27回の施術操作のまとめを行う。
14	まとめ②	
15	期末試験（実技）	整形外科疾患に関する病態鑑別を行う。 指定された部位への刺鍼操作の確認を行う。

〔評価について〕 実技試験およびFormsにて確認試験行う。 実技試験は中間評価試験と期末試験の合計100点で評価する。評価については学則規定に準ずる。	〔特記事項〕 与えられた課題に対して取り組み、その結果を自分なりに分析を行うよう努めること。不透明な部分については明確にするよう行動を起こすこと。
--	--

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	鍼灸師科午前・午後コース	学年 必修 ・ 選択	2	開講区分 必修	通年 実技	担当教員 東 路子 先生
	応用はりきゅう実技					

[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

鍼灸師として東洋医学的知見を有している教員が、はりきゅう実技の基本実技の徹底と応用実技を通じて臨床へのステップアップの方法を教授していく。

[到達目標]

- ① 基本的なきゅう実技(有痕灸・無痕灸)・灸頭針を人体上に安全に実施することができる。
- ② 運動器疾患の鑑別と治療方針の立て方について理解し、鍼灸の治療を計画実行を行うことはできる。

[使用教材、参考文献等]

はりきゅう実技(医道の日本社) ずっと使える!鍼灸臨床BOOK(滋慶出版)

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	透熱灸 ステップ① 米粒大 半米粒大 糸状灸	大きさ 形をそれぞれ作ることができる。
2	透熱灸 ステップ② 米粒大 半米粒大 糸状灸	燃焼温度をコントロールすることができる。
3	透熱灸 ステップ③ 人体 一点施灸	各施術部位の取穴・消毒・施術動作が一連で行える
4	透熱灸 ステップ④ 人体 一点施灸 (頭部)	頭部の施灸を安全に行うことができる。
5	透熱灸 ステップ⑤ 人体 二点交互施灸 (足裏)	二点交互を安全に行うことができる。
6	透熱灸 ステップ⑥ 人体 二点交互施灸 (下肢)	二点交互を下肢に行うことができる。
7	透熱灸 ステップ⑦ 人体 二点交互施灸 (上肢)	二点交互を上肢に行うことができる。
8	透熱灸 ステップ⑧ 人体 二点交互施灸 (腰部)	腰部に安全に二点交互施灸ができる。
9	透熱灸 ステップ⑨ 人体 二点交互施灸 (腹部)	腹部に安全に二点交互施灸ができる。
10	透熱灸 ステップ③～⑨の練習	実技レベル確認
11	無痕灸 ステップ① 知熱灸	無痕灸の分類について理解し艾炷が作れる
12	無痕灸 ステップ② 知熱灸	艾炷を用いて自分に施灸できる。
13	無痕灸 ステップ③ 知熱灸	艾炷を用いて学生同士で安全に施灸できる。
14	無痕灸 ステップ④ 隔物灸 (腹部)	隔物灸を用いて腹部に施灸できる。
15	無痕灸 ステップ⑤ 隔物灸 (背部)	隔物灸を用いて背部に施灸できる。

[評価について]

評価は課題提出と実技試験で行う。
実技試験は無痕灸30点 期末テスト(30点)と課題提出(40点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前・午後コース	学年	2	開講区分	通年	担当教員	東路子 先生	
授業科目名	応用はりきゅう実技	必修 ・ 選択	必修	授業形態	実技	時間数 30 (1)	授業回数 15	

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

鍼灸師として東洋医学的知見を有している教員が、はりきゅう実技の基本実技の徹底と応用実技を通じて臨床へのステップアップの方法を教授していく。

[到達目標]

- ① 基本的なきゅう実技(有痕灸・無痕灸)・灸頭針を人体安全に実施することができる。
- ② 運動器疾患の鑑別と治療方針の立て方について理解し、鍼灸の治療を計画実行を行うことはできる。

[使用教材、参考文献等]

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
16	特殊針法 灸頭針① 艾球の作り方	散艾から丸い艾球をつくことができる。
17	特殊針法 灸頭針② 鍼の操作と艾球(鍼枕)	艾球と鍼を合わせ最後まで落下することなく実施できる。
18	特殊針法 灸頭針③ 自分自身に施灸練習	灸頭針に安全燃やしきることができる。
19	特殊針法 灸頭針④ ペアで施灸練習	ペアの腰部に灸頭針を行うことができる。
20	頭部 施術	頭顔面部に治療法について安全に行うことができる。
21	頭部 施術	
22	腰痛・腰下肢痛の鑑別診断	腰痛・腰下肢痛について理解し、鑑別から施術までの流れを行うことができる。
23	腰痛・腰下肢痛の治療法	
24	膝関節の鑑別診断	膝関節の構造を理解し、鑑別から施術までの流れを行うことができる。
25	膝関節の治療法	
26	股関節の鑑別診断	股関節痛の鑑別について理解できる。
27	股関節の治療法	股関節痛の施術を行うことができる。
28	無痕灸試験	知熱灸・隔物灸・灸頭針について試験を行う。
29	無痕灸試験	
30	期末試験	課題提出日(40点)腰痛・腰下肢・膝・股関節の症例について試験を行う。

[評価について]

評価は課題提出と実技試験で行う。
実技試験は無痕灸30点 期末テスト(30点)と課題提出(40点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前・午後コース	学年	2	開講区分	半期	担当教員 専任教員		
授業科目名	認定実技(OSCE I)	必修	必修	授業形態	実技	時間数	30 (1)	授業回数
		選択						15

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

臨床現場で様々な患者に関わってきた教員が、臨床実習に臨むために医療人としてふさわしい技術・知識を身につけるための講義を行う。

[到達目標]

客観的臨床能力試験に向けたコミュニケーション技法を把握できる。
医療人として必要とされる技術・知識を理解できる。

[使用教材、参考文献等]

ずっと使える！鍼灸臨床BOOK(滋慶教育科学研究所)

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	実習前教育(1)	実習生として必要なマナーを知り、身だしなみや態度に留意できる。
2	実習前教育(2)	実習概要を把握し、実習教育における留意点を把握できる。
3	医療面接について	医療面接の概要を把握できる。
4	実習前教育(3)	実習生として必要なマナーを知り、身だしなみや態度に留意できる。 実習生紹介書を作成できる。
5	個人情報について	医療現場で配慮すべき個人情報について理解できる。
6	医療面接ロールプレイ(3人1組 時間8分) 冊子を見ないでプレイ	医療面接に必要な項目を聴取し、メモを取ることができる。
7	医療面接ロールプレイ(3人1組 時間8分) 冊子を見ないでプレイ	医療面接に必要な項目を聴取し、まとめることができる。
8	実習前教育(4)	実習生として必要な留意点を確認し、実習生としての身構え・気構え・心構えを持つことができる。
9	実習前教育(5)	治療院業務や、実習実施に向けたルールを把握できる。
10	リスク管理	医療現場におけるリスクファクターと対策を知ることができます。
11	臨床実習事後報告準備(1)	報告会までにすべき準備をまとめられる。
12	臨床実習事後報告準備(2)	報告会までにすべき準備をまとめられる。
13	臨床実習事後報告準備(3)	報告会までにすべき準備をまとめられる。
14	臨床実習事後報告会(1) 期末評価	実習報告により、自身の課題発見ができる。
15	臨床実習事後報告会(2) 期末評価	実習報告により、自身の課題発見ができる。

[評価について]

評価は医療面接による確認テストとレポートの合計100点で行なう。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

学生は実習を受けさせていただくにあたり、対人におけるマナー、礼節、リスク管理、時間管理を疎かにしてはならない。効果的な実習体験ができるよう、どのような行動を取るべきかを常に考え、分からぬ事や知りたい事は自らアドバイスを求める。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	鍼灸師科午前・午後コース	学年	2	開講区分	通年	担当教員 各実習地指導者又は専任教員		
	臨床実習 I	必修/ 選択	必修	授業形態	実習	時間数 (単位)	90 (2)	授業回数

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

5年以上開業ならびに5年以上の臨床経験を持ち、講習会を受講しているまたは専任教員資格を有する実習指導者が、鍼灸師のスペシャリストを目指すために、患者接遇や院内コミュニケーションの重要性を取得する実習を行なう。鍼灸師としてのやりがいや重要性を見つけ、専門職として必要なことは何かを考えながら実習してほしい。実習となるため、報告・連絡・相談を忘れず実習に臨んでほしい。

[到達目標]

挨拶・言葉遣い・身だしなみ等、鍼灸施術所で必要なコミュニケーションができる。

院内業務を理解し、実習指導者に適切な質問ができる。

デイリーノートをしっかりと記載し、自身の課題を把握できる。

[使用教材、参考文献等]

デイリーノート

[準備学習・時間外学習]

コミュニケーションの基礎や実習前教育で学んだ内容を復習し実習に臨むこと。またその日のうちにその日の振り返りをし、次の実習に備えること。

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1~6	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
7~12	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
13~18	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
19~24	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
25~30	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
31~36	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
37~42	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
43~48	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
49~54	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
55~60	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
61~66	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
67~72	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
73~78	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
79~84	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける
85~90	鍼灸施術所による臨床実習	実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける

[評価について]

評価は別途評価表で行なう。

評価は現場実習評価、レポート・実習後評価の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

通常授業とは異なる外部での実習となるため、緊急事項に関しては必ず指導者と学校に連絡をすること。

※COVID-19の影響で学内実習の変更する可能性あり。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	鍼灸師科午前・午後コース	学年	2	開講区分	通年	担当教員		
	総合スポーツ演習 I					鈴木 勇氣 先生/専任教員		

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

スポーツ現場でトレーナーの仕事を経験した鍼灸師の資格を持った教員が、身体各部位のスポーツ傷害について、怪我の発症から検査・評価などに関する知識をグループワークを交えながら学ばせていく。

スポーツ現場での選手や治療院でのスポーツ傷害を持った患者に対応できるよう、スポーツ社会に貢献するという意識を持って学んでほしい。

[到達目標]

スポーツ傷害における簡単な発症機序から検査・評価について理解する事ができる。

スポーツ傷害における病態把握の重要性を理解する事ができる。

[使用教材、参考文献等]

[準備学習・時間外学習]

運動器における身体各部位の解剖学を復習し授業に臨むこと。また、動作チェックやテスト法など検査についてしっかりと復習し、適確にできるよう練習する事。

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	講義の概要とスポーツ外傷について	スポーツ外傷の基礎的な内容が理解できる。
2	足関節の外傷と評価	足関節の外傷と評価方法が理解できる。
3	部位別ケーススタディ(足関節)	与えられた部位におけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。
4	膝関節の外傷と評価	膝関節の外傷と評価方法が理解できる。
5	部位別ケーススタディ(膝関節)	与えられた部位におけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。
6	肉離れの概要と評価	肉離れの概要と評価方法が理解できる。
7	部位別ケーススタディ(ハムストリング肉離れ)	与えられた部位におけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。
8	打撲の概要と評価	打撲の概要と評価方法が理解できる。
9	部位別ケーススタディ(大腿部打撲)	与えられた部位におけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。
10	肩関節の外傷と評価	肩関節の外傷と評価方法が理解できる。
11	部位別ケーススタディ(肩関節)	与えられた部位におけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。
12	確認テスト	
13	頭・頸部外傷と評価	頭・頸部外傷と評価方法が理解できる。
14	部位別ケーススタディ(頭・頸部)	与えられた部位におけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。
15	スポーツ障害の概要	スポーツ障害の基礎的な内容が理解できる。

[評価について]

評価はレポートもしくは筆記試験、発表により採点を行い、合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

1回の授業で2コマずつ行なっていく。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	鍼灸師科午前・午後コース	学年	2	開講区分	通年	担当教員		
	総合スポーツ演習 I					鈴木 勇氣 先生/専任教員		

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

スポーツ現場でトレーナーの仕事を経験した鍼灸師の資格を持った教員が、身体各部位のスポーツ傷害について、怪我の発症から検査・評価などに関する知識をグループワークを交えながら学ばせていく。

スポーツ現場での選手や治療院でのスポーツ傷害を持った患者に対応できるよう、スポーツ社会に貢献するという意識を持って学んでほしい。

〔到達目標〕

スポーツ傷害における簡単な発症機序から検査・評価について理解する事ができる。
スポーツ傷害における病態把握の重要性を理解する事ができる。

〔使用教材、参考文献等〕

〔準備学習・時間外学習〕

運動器における身体各部位の解剖学を復習し授業に臨むこと。また、動作チェックやテスト法など検査についてしっかりと復習し、適確にできるよう練習する事。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
16	骨盤・股関節障害と評価	骨盤・股関節障害と評価方法が理解できる
17	腰部障害と評価	腰部障害と評価方法が理解できる
18	腰部障害のリハビリとトレーニング・治療法	腰部障害のリハビリとトレーニング・治療法が模倣できる
19	足関節捻挫のリハビリとトレーニング・治療法①	足関節捻挫のリハビリとトレーニング・治療法が模倣できる
20	足関節捻挫のリハビリとトレーニング・治療法②	足関節捻挫のリハビリとトレーニング・治療法が模倣できる
21	膝関節傷害のリハビリとトレーニング・治療法	膝関節傷害のリハビリとトレーニング・治療法が模倣できる
22	大腿部肉離れのリハビリとトレーニング・治療法①	大腿部肉離れのリハビリとトレーニング・治療法が模倣できる
23	大腿部肉離れのリハビリとトレーニング・治療法②	大腿部肉離れのリハビリとトレーニング・治療法が模倣できる
24	大腿部肉離れのリハビリとトレーニング・治療法③	大腿部肉離れのリハビリとトレーニング・治療法が模倣できる
25	下腿部肉離れのリハビリとトレーニング・治療法	下腿部肉離れのリハビリとトレーニング・治療法が模倣できる
26	大腿部打撲のリハビリとトレーニング・治療法	大腿部打撲のリハビリとトレーニング・治療法が模倣できる
27	肩関節傷害のリハビリとトレーニング・治療法	肩関節傷害のリハビリとトレーニング・治療法が模倣できる
28	下肢スポーツ障害のトレーニング・治療法	下肢スポーツ障害のトレーニング・治療法が模倣できる
29	上肢スポーツ障害のトレーニング・治療法	上肢スポーツ障害のトレーニング・治療法が模倣できる
30	期末テスト	

〔評価について〕

評価はレポートもしくは筆記試験、発表により採点を行い、合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

1回の授業で2コマずつ行なっていく。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	鍼灸師科午前・午後コース 総合学習	学年	2	開講区分	通年	担当教員 専任教員
		必修/ 選択	必修	授業形態	講義/演習	時間数 (単位) 30 (1)

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

鍼灸師として臨床現場で活躍してきた教員が、医療人を目指す上で必要な能力を、能動的に学習できるよう学習技法を習得する授業を行う。

コミュニケーションスキルが医療を学ぶ上で必須の能力であることを意識して臨んでほしい。

〔到達目標〕

集団行動を通して、医療人を目指す上で必要とされる基礎的なコミュニケーション能力と能動的学習法を習得する。

〔使用教材、参考文献等〕

〔準備学習・時間外学習〕

講義内容を復習すること。各々が一社会人となる意識を持ち、人格形成に努めること。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	インソール作成	動的・静的評価が出来る。
2	インソール作成	クライアントに合わせて、インソールの作成が出来る。
3	キャリア形成プログラム(総論)	卒業後の姿がイメージできる。
4	キャリア形成プログラム(総論)	卒業までの計画を立てられる。
5	キャリア形成プログラム(各論)	卒業までの計画を立てられる。
6	キャリア形成プログラム(各論)	立てた計画を実行できる。
7	キャリア形成プログラム(各論)	立てた計画を実行できる。
8	キャリア形成プログラム(各論)	立てた計画を実行できる。
9	キャリア形成プログラム(各論)	立てた計画を実行できる。
10	振り返り	
11	相互支援関係強化プログラム	医療人としての利他主義を身に付ける
12	相互支援関係強化プログラム	医療人としての利他主義を身に付ける
13	相互支援関係強化プログラム	医療人としての利他主義を身に付ける
14	相互支援関係強化プログラム	医療人としての利他主義を身に付ける
15	相互支援関係強化プログラム	医療人としての利他主義を身に付ける

〔評価について〕

評価はレポート提出による。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	鍼灸師科午前・午後コース	学年	1	開講区分	通年	担当教員			
	総合学習					日本ライフセービング協会／専任教員			

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)
BLSについて知見のある教員が、BLSの基本的な知識と技術に関わる講義と実技を行なう。鍼灸師として心身の健康を支えるために必要なBLSの資格講習となるため、積極的に授業に臨んで欲しい。現代医学的診察法においては臨床現場で必要な診察の基礎、血圧測定法やその意義を理解するための授業を行う。また座学科目の総合的知識確認の為の効果測定を行う。

[到達目標]

BLSの資格を取得を目標とする。臨床現場や日常生活で救命措置が必要な場面に遭遇した際、適確な判断のもと、対処できる知識と技術を習得する。現代医学的診察法では、臨床現場で必要となる血圧測定法・意義を理解し、適確に行える技術を習得する事を目的とする。また座学科目の総合的知識を確認し、知識の定着を目的とする。

BLS:心肺蘇生教本(ライフセービング協会) 現代医学的診察法;ずっと使える!鍼灸臨床BOOK(滋慶出版)	[準備学習・時間外学習] BLS:資格講習となるため、繰り返し復習することが望ましい。 現代医学的検査法:検査法の意義、方法を理解するため、解剖学や生理学を復習して授業に臨んで欲しい。
--	--

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
16	心肺蘇生法とAEDの使用について(1)	BLSの概要を理解できる。
17	心肺蘇生法とAEDの使用について(2)	BLSの基礎知識を理解できる。
18	心肺蘇生法とAEDの使用について(3)	心肺蘇生法の手順、AEDの使用法を模倣することができる。
19	心肺蘇生法とAEDの使用について(4)	心肺蘇生法の手順、AEDの使用法を模倣することができる。
20	心肺蘇生法とAEDの使用について(5)	心肺蘇生法、AEDの使用法を実践することができる。
21	心肺蘇生法とAEDの使用について(6)	心肺蘇生法、AEDの使用法を実践することができる。
22	心肺蘇生法とAEDの使用について(7)	心肺蘇生法、AEDの使用法を身につけることができる。
23	心肺蘇生法とAEDの使用について(8)	心肺蘇生法、AEDの使用法を身につけることができる。
24	心肺蘇生法とAEDの使用について(9)	資格認定試験にむけて、理解を深めることができる。
25	心肺蘇生法とAEDの使用について(10) 認定試験	資格認定試験を行なう。
26	現代医学的診察 検査概要、血圧測定	血圧測定の方法を実践できる。
27	確認テスト(1)	四肢折一形式のテストを行い、総合的な知識の習熟度を理解できる。
28	確認テスト(1) レポート	テストにより効果測定を行い、レポートにより習得できていないところを把握し、理解度を深める。
29	確認テスト(2)	四肢折一形式のテストを行い、総合的な知識の習熟度を理解できる。
30	確認テスト(2) レポート	テストにより効果測定を行い、レポートにより習得できていないところを把握し、理解度を深める。

[評価について] 評価は確認テスト・レポート評価を2回実施し、合計100点で評価する。評価は学則規定に順ずる。	[特記事項] 救命救急技術の演習を行なうため、動きやすい服装(スカート不可)で参加すること。
--	---

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	鍼灸師科午前・午後コース	学年	2	開講区分	半期	担当教員		
	リハビリテーション概論 I					東野 友寛 先生		

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

臨床現場で施術業務を行っている教員が、リハビリテーションの捉え方を理解し、どのような評価方法を行なうかの授業を行う。また、リハビリテーションとはどのような範疇をとらえているのかをみていき、評価方法の基礎を学ぶ。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。

〔到達目標〕

リハビリテーションの理念やその対象の決め方、進め方などを理解する。

〔使用教材、参考文献等〕

リハビリテーション医学(医歯薬出版)

〔準備学習・時間外学習〕

リハビリテーションの理解を深めるため、難しい用語の意味まで理解し復習を重ねることが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	リハビリテーションと障害	基本理念を理解する。
2	IHIDHとICF	ICFを理解する。
3	リハビリテーションの対象	身体障害について理解する。
4	リハビリテーションの進め方	チームアプローチの理解をする。
5	高齢者と高齢社会/確認テスト①	高齢者の特性を理解する。
6	MMTとROM	MMTとROMの違いを理解する。
7	活動の評価	バーセルインデックス・FIMを理解する。
8	廃用症候群	廃用症候群とは何かを知り、症状や原因などを理解し、どのようなリハビリを行なうかを理解する。
9	ブルンストームのステージ/確認テスト②	痙性マヒと弛緩性マヒの違いを理解する。
10	理学療法	理学療法を理解する。
11	作業療法	作業療法を理解する。
12	言語聴覚療法	言語聴覚療法を知り、理解する。
13	補装具療法、リハビリテーション看護、ソーシャルワーク	補装具療法、リハビリテーション看護、ソーシャルワークについて理解できる。
14	総復習	授業の振りりを行い、習熟度を高めることができる。
15	期末テスト 解答・解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深めることができる。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。

筆記試験は確認テスト①確認テスト②期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前・午後コース	学年	2	開講区分	半期	担当教員		
授業科目名	はりきゅう治効理論		必修 ・ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 30 (1)	授業回数 15

[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

鍼灸師として地域住民の健康増進に貢献している教員が、多種の鍼灸施術の方法を指導し、適切な施鍼・施灸技術を習得するための授業を行なう。応用技術習得と並行し、現場で通用するような基礎技術の向上が目的にある為、現場で必要とされる技術を身に付けられるよう授業に臨んでほしい。

[到達目標]

なぜ鍼灸治療が効果があるのかの説明ができるような知識を習得する。

[使用教材、参考文献等]

はりきゅう理論[医道の日本社]

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション 第9章 鍼灸治効の基礎 1、痛み感覚の受容と伝導	痛みの種類とそれぞれの特徴を理解できる。
2	第9章 痛み感覚の受容と伝導～温度感覚の受容と伝達	痛覚受容器の種類と特徴、痛覚の伝導路を理解できる。
3	第9章 触圧感覚の受容と伝達～鍼灸刺激と反射①	触圧感覚の受容と伝達について理解できる。 鍼灸刺激と関連する反射を理解できる①
4	第9章 鍼灸刺激と反射②	鍼灸刺激と関連する反射を理解できる②
5	第9章 鍼鎮痛①	鍼鎮痛について理解できる①
6	第9章 鍼鎮痛②	鍼鎮痛について理解できる②
7	確認テスト 解答・解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
8	第9章 刺激と反応	鍼灸施術における局所の反応が理解できる。
9	第10章 鍼灸療法の一般治効理論 自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響①	自律神経の概要が理解できる。
10	第10章 自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響②	鍼灸治療が自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響を理解できる。
11	第10章 生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響	生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響を理解できる。
12	第10章 鍼刺激による免疫系への影響	鍼刺激による免疫系への影響、鍼灸刺激と神経系・内分泌系・免疫系の相互作用を理解できる。
13	第11章 関連学説 サイバネティックス学説～ストレス学説	鍼灸治効を考えるうえで参考となる学説を理解できる①
14	第11章 ストレス学説～圧発汗反射	鍼灸治効を考えるうえで参考となる学説を理解できる②
15	期末試験 解答・解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

[評価について]

評価は筆記試験で行う。

筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行う。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午前・午後コース	学年	1	開講区分	前期	担当教員		
授業科目名	東洋医学概論Ⅱ		必修 ・ 選択	必修	授業形態	講義	時間数 30 (1)	授業回数 15

[授業の学習内容と心構え](実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

鍼灸師として臨床で現場で地域住民の健康増進に貢献している教員が、鍼灸の基礎となる東洋医学のうち、基礎からの応用を習得する授業を行なう。

東洋医学の基礎となる言語を意識しながら受講してほしい。
座学での授業であるため、しっかりと復習して授業に臨んでほしい。

[到達目標]

1年生に学んだ東洋医学の基礎に肉付けをしていく、知識を深めていく。

[使用教材、参考文献等]

新版 東洋医学概論(医道の日本社)

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	・オリエンテーション ・1年生の復習と五臓相互関係①	五行色体表を復習し、五臓の相互関係をイメージしていく。
2	・五臓相互関係②	五臓の相互関係を理解する。
3	・五臓の相互関係③	五臓のそれぞれの病証を考えながら相互関係を理解する。
4	・五臓の相互関係④⑤	五臓のそれぞれの病証を考えながら相互関係を理解する。
5	・五臓の相互関係⑥ ・四診(望診)	五臓の相互関係を理解し、東洋医学的な診断方法について学習する。
6	・四診(望診)(聞診)	患者さんを「診る」ことの重要性を理解する。
7	・四診(問診)①	実際の医療面接を意識しながら、どのように患者さんと対話を通じて情報を得ていくかを理解する。
8	・四診(問診)②	実際の医療面接を意識しながら、どのように患者さんと対話を通じて情報を得ていくかを理解する。
9	・四診(問診)③④	実際の医療面接を意識しながら、どのように患者さんと対話を通じて情報を得ていくかを理解する。
10	確認テスト 実施	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
11	・四診(問診)④(切診)	東洋医学独特の言い回しなどを学びながら、様々な脈などを理解していく。
12	・四診(切診)	実際に触れていく準備(知識)を深める。
13	・弁証について	弁証について理解する。
14	・論治について	論治について細かい部分を理解する。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

[評価について]

評価は筆記試験で行う。

筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	鍼灸師科午前・午後コース	学年 必修 ・ 選択	2 必修	開講区分 授業形態	通年 講義	担当教員 東 路子 先生
	東洋医学臨床論 I					

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

治療の適不適を判断し、適切な鍼灸治療が行えるよう、その方法を学習する科目である。特に臨床上遭遇しやすい症候・疾病に対して東洋医学と現代医学を統合した鍼灸治療の実際を学習するに重点がおかれている。

[到達目標]

施術の対象か否かを判断し、適応診断に対しての施術方法を西洋医学的も東洋医学的にも考え方導き出すことができる。

[使用教材、参考文献等]

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
16	月経①	西洋医学的な月経について理解できる。
17	月経②	東洋医学的経早・経遅・経乱を理解できる。
18	腰痛	腰痛の鑑別ができる。(西洋・東洋)
19	腰下肢痛・股関節痛	腰下肢痛・股関節痛の鑑別ができる。
20	肩こり・頸肩腕痛 肩関節痛 上肢痛 運動麻痺	東洋医学的な考え方で治療穴を選穴できる。
21	膝痛	膝関節痛の鑑別ができる。
22	悪心嘔吐	悪心嘔吐のメカニズムが理解できる。
23	便秘	便秘のメカニズムが理解できる。
24	下痢	下痢のメカニズムが理解できる。
25	インポテンツ 確認テスト(Forms)30点	インポテンツのメカニズムが理解できる。
26	高血圧・低血圧	血圧のメカニズムが理解できる。
27	食欲不振	食欲不振のメカニズムが理解できる。
28	やせ 肥満	体重の変化について理解できる。
29	発熱	発熱のメカニズムについて理解できる。
30	期末試験(70点)	

[評価について]

評価は筆記試験で行う。

筆記試験はフォームスでのテスト(30点)と期末テスト(70点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

[特記事項]

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2021年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 授業科目名	鍼灸師科午前・午後コース	学年	2	開講区分	半期	担当教員		
	病態生理学					深山 俊 先生		

[授業の学習内容と心構え] (実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

鍼灸師として地域住民の健康増進に貢献している教員が、現代西洋医学をベースに病態把握・鑑別をするために必要な知識を習得するための授業を行なう。

座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。また統合医療の必要性を理解し、鍼灸師が担う医療について知見を広めて欲しい。

[到達目標]

臨床医学総論や臨床医学各論の知識に肉付けし、臨床科目の理解を促すことを目的として、病態把握・鑑別の必要性を理解し、重篤な疾患や緊急を要する病態を見落とさないための知識を習得することを目標とする。

[使用教材、参考文献等]		[準備学習・時間外学習]
臨床家のための基礎からわかる(医道の日本社) 臨床医学各論(医歯薬出版)		専門用語が多い科目のため、予め教科書・参考書を読み予習してくること。また授業後は復習をし、各単元で学んだ疾患について必要な知識を列挙できるようになることが望ましい。

回	[授業概要]	到達目標(できるようになること)
1	痛みとは	痛みの分類を理解できる。
2	痛みとは	痛みの発生機序を理解できる。
3	<痛み 確認テスト>消化管疾患の病態生理	消化器疾患の病態生理、臨床症状について、理解できる。<確認テスト>
4	消化管疾患の病態生理	消化器疾患の病態生理、臨床症状について、理解できる。
5	<消化管 確認テスト>肝・胆・脾疾患の病態生理	肝・胆・脾疾患の病態生理、臨床症状について、理解できる。<確認テスト>
6	肝・胆・脾疾患の病態生理	肝・胆・脾疾患の病態生理、臨床症状について、理解できる。
7	肝・胆・脾疾患の病態生理<肝・胆・脾疾患 確認テスト>	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。<確認テスト>
8	耳鳴りの病態生理	耳鳴りの病態生理、臨床症状について、理解できる。
9	耳鳴りの病態生理	耳鳴りの病態生理、臨床症状について、理解できる。
10	<耳鳴り 確認テスト>難聴の病態生理	難聴の病態生理、臨床症状について、理解できる。<確認テスト>
11	難聴の病態生理	難聴の病態生理、臨床症状について、理解できる。
12	<難聴 確認テスト>眩暈の病態生理	眩暈の病態生理、臨床症状について、理解できる。<確認テスト>
13	眩暈の病態生理	眩暈の病態生理、臨床症状について、理解できる。
14	<眩暈 確認テスト>病態生理の総復習	病態生理学の知識を確認し、試験における自らの課題発見ができる。<確認テスト>
15	期末テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

[評価について]	[特記事項]
評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。	每授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。